

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科	国際教養学科			
科目名称	経営と会計						授業形態	講義		
科目コード	521111	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験担当教員			Active・L	○
担当教員名	土田 博							ICT活用		
授業概要	<p>本授業は、簿記会計の基礎知識の修得を通して、学生が企業経営から家計に至るまでのあらゆる経済活動を理解するための基礎力を身につけることを目的としている。</p> <p>授業は、初めて簿記を学ぶ学生を対象とした内容であり、全経簿記検定3級、日商簿記検定3級、全経簿記検定2級合格を目指すクラスである。すでにこれらの級に合格している学生も、より熟練するために履修してもらいたい。</p> <p>この授業は後期に開講される「簿記原理」と連動する授業で、3級合格のための前半部分をこの授業で講義する。</p> <p>資格取得は就職にもつながり、ひいては地域社会への貢献にもつながっていきます。</p>									
関連する科目	「簿記原理」「コンピュータ会計」									
授業の方法と進め方	<p>講義に演習を交えながら、具体的に問題を解きながら進めて行く。</p> <p>簿記の学習は、とにかく自分で問題を解いてみることである。</p> <p>アクティブラーニングについて：人に教えることは自分自身の理解にも大きく作用します。ペアを組んで学んでもらいます。</p> <p>ICTの活用について：特に簿記の初心者は自分の手で記入することが大切ですので、ICTの活用は考えていません。</p>									
第1回	授業の進め方、簿記とは何か、簿記の流れ、基本ルールについて 簿記の歴史、簿記の役割、簿記の基本ルールについて学ぶ									
第2回	資産・負債・純資産と貸借対照表 一定時点における財政状態を表す貸借対照表の構成要素について学ぶ									
第3回	収益・費用と損益計算書 収益・費用の概念および損益計算書の見方について学ぶ									
第4回	仕訳 仕訳のルールについて実際に記帳を行い学ぶ									
第5回	仕訳と転記 仕訳帳から総勘定元帳への転記について実際に記帳を行い学ぶ									
第6回	商品売買取引①：3分法における仕訳方法について学ぶ									
第7回	商品売買取引②：掛取引、返品・値引の記帳について学ぶ									
第8回	現金・預金の取引①：現金・預金取引について学ぶ									
第9回	現金・預金の取引②：現金過不足、当座預金、当座借越など現・預金の重要論点を学ぶ									
第10回	現金・預金の取引③：小口現金および小口現金出納帳の記帳について学ぶ									
第11回	手形 ①：約束手形と為替手形の意味、仕訳について学ぶ									
第12回	手形 ②：手形の裏書きと割引についての意味と記帳について学ぶ									
第13回	有価証券、固定資産についてそれぞれの勘定の意味と取引事例について学ぶ									
第14回	その他の取引 ①：未収金、未払金、貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金という重要論点についてその仕訳を学ぶ									
第15回	その他の取引 ②：前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金という重要論点についてその仕訳を学ぶ									
授業の達成目標	<p>企業の経済活動の流れや取引内容に関する知識を修得し、日々の簿記上の取引の把握の仕方（帳簿記入）を身につける。【知識・理解】</p> <p>日商簿記検定3級、全経簿記検定3級・2級の資格取得の基礎力を習得し、社会に貢献しうる知識・技能を身につける。【汎用的技能】</p> <p>資格取得は就職にもつながり、ひいては地域社会への貢献にもつながっていきます。【態度・志向性】</p>									
学修成果との関連	6.地域社会への貢献に必要な知識・技能を有する。									
授業時間外学習【予習】	予習は不可欠である（1時間程度は必要）。今度授業を行うところを予め必ず目を通しておくこと。。									

授業時間外学【復習】	復習は不可欠である（1時間程度は必要）。技能は、基本的な項目（ルールや形式）を覚え、反復練習（練習問題を解く）によって身につくものである。
課題に対するフィードバック	課題は理解するまで解説を行う
評価方法・基準	定期試験100%
テキスト	検定試験用問題集を予定している。
参考書	特になし
備考	<ul style="list-style-type: none">・10桁以上の電卓を必ず携行すること。・簿記検定の資格取得を目指す学生は、引き続き後期の「簿記原理」を履修すること。・全経簿記3級を取得していない学生は全員受験します。